

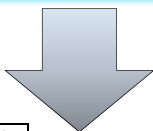
*気になること、子どもの困っているところなど、当面の自立活動の指導を考える際に中心となる課題（実態）に◎を付けてみましょう。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の実態把握欄を参考にしてもよいでしょう。この中から、必要なことを選んで、「自立活動の個別指導計画票」の実態把握欄に記入しましょう。併せてP18以降の(2)指導目標の設定のステップ1：課題の整理も参考にしてみましょう。



実際に、笛吹セン太さん（小4，男児）を例にしてみましょう。

児童生徒学年・氏名（ 4年・ 笛吹 セン太 ）
 記載者氏名 （ 担任 ○○○○ ）

教員から見て	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で話すことはできる。 ボール運動では遠くに投げられない。身体の動きや手指の動きにぎこちなさがある。速く走ることはできる。 文字を書くことが苦手で、形が整わない。 ◎ゲーム活動で、自分が負けそうになると、わざと違う方にボールを投げるなどする。途中でゲームをやめてしまい、その場から飛び出す。 ◎自分の悔しさは主張するが、相手に合わせることや、相手の気持ちを考えて行動することは苦手である。 下級生に対しては、優しく声をかけることができる。 自分は何でもできるはずと強く思っていて、何でもやりたがるが、うまくいかずに途中で投げ出すことが多い。 ◎話を最後まで聞かずに、思い込みで行動してしまうことがある。 読むことには問題がないので、読書量は多い。計算は速い。
保護者から見て	<ul style="list-style-type: none"> 学校でのことを尋ねると話すようにはなったが、話の流れが分かりにくい。 ◎友達と遊ぶときには、けんかをする人が多いようで、いらいらして帰ってくる。 気が向くと集中して頑張るが、好き嫌いは激しい。
子どもから見て	<ul style="list-style-type: none"> 文字が上手く書けない。 いつもゲームに負けてばかりいて、くやしい。だから、つい、乱暴をしてしまう。
心理・医療・福祉的視点	<ul style="list-style-type: none"> 知能検査、医療受診などはしていない。
その他指導上配慮が必要なことなど	<ul style="list-style-type: none"> 偏食がある。（野菜を食べない。） アトピー性皮膚炎があり、汗をかいたときや夏場は、冷たいタオルなどで身体を拭かせることが必要である。



中心となる実態を実態把握票に記入します。

資料1 「自立活動の個別指導計画票」実態把握欄

① 『自立活動の指導のためのチェックリスト』を活用し、実態例を参考にしながら「項目の内容」にチェックを入れてみましょう。心理、医療など、多面的に子どもを理解し、実態把握欄に記入しましょう。今、どこまでできているのかも把握しましょう。

1 実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム等の勝敗にこだわり、自分が負けそうになるとルールに従えなかったり、その場から飛び出したりする。 悔しい気持ちは言えるが、自己主張が強く怒鳴ってしまい、相手の気持ちを考えて話すことが難しい。 最後まで話を聞かずに、行動に移してしまうため、みんなと違った行動をとってしまう。 粗大運動を好むが、身体の動きや手の動きがぎこちない。
-----------	--

(2) 指導目標の設定

指導目標の設定に当たっては、実態把握に基づいて、学年等を通しての長期的な観点に立った目標（以下、「長期目標」）と、学期ごとなどの当面の短期的な観点に立った目標（以下、「短期目標」）を定めます。個々の児童生徒の障害の状況等は変化することがあるので、長期目標については、今後の見通しを予測しながら指導目標を適切に変更するなど弾力的な対応が必要です。

次に指導目標の設定の手順を示します。

ステップ1：課題の整理

実態把握から指導をしたほうがよいと思われる点がいくつか出てきます。目標の設定や内容を選定するに当たっては、現在の状態に着目するだけでなく、課題となる内容の背景や要因を考え、将来の可能性を広い視野から見通した上で、現在の段階において指導すべき事柄を選定することも大切です。

それらの課題の相互の関連性や重要性、優先度を考慮して、当面指導すべき課題を決めていきます。その際、以下の点を参考にして決めていくとよいでしょう。

- 今、指導することが必要とされていること。
- 少し頑張れば達成できそうなこと。
- 将来を見通した上で、現在必要とされていること。

指導目標の妥当性を高めるためには、「自立活動の指導のためのチェックリスト」で、数多くチェックされた項目や、複数の人が気付いたことなどから選んでみるのもよいでしょう。

こんな方法も活用してみても…



実態把握から指導すべき課題の整理のために、こんな方法もあります。



ブレインストーミング

〈特徴〉

気楽な雰囲気の中で固定概念を排し、自由に思いつきやアイデアを出し合い、そのことから想像と連想を働かせて、多くのアイデアを生み出すことができる。

〈実施例〉

- ① 課題を設定する。
- ② ブレインストーミングの環境を整える。
- ③ 自由に発言し、全てを記録する。
 - ・批判厳禁：出されたアイデアに対して批判は一切しない。
 - ・自由奔放：思いつくままに話し合う。
 - ・相乗り歓迎：他のアイデアに乗って出されるアイデアも歓迎。
 - ・質より量：多様なアイデアを出すことがのぞましい。
- ④ セッションを終え意見をまとめる。
- ⑤ 出たアイデアを大切に、次のステップに進む。

KJ法

〈特徴〉

問題そのものの全体像がはっきりせず、どこに問題があるか見つけ出すときや、問題解決ステップで出された解決策がどんな関係になっているかを理解し合うのに有効である。チームのメンバーが全体像を共有することで、解決の方向性が見つけやすくなる。

〈実施例〉

- ① 出されたアイデアや収集した情報をカード（付箋紙等）に記入する。（1枚につき一つの内容）
- ② カードを見て、共通するものをまとめ、簡潔な文言でタイトルをつける。
- ③ 小グループを大グループにまとめたり、グループごとの関連を矢印で結んで構造化する。
- ④ 最後に作業を通して分かったことなどを文章化して、まとめたり、話し合いを行う。

『教員研修の手引き—効果的な運営のための知識・技能—』

独立行政法人教員研修センターより

ステップ2：長期目標と短期目標の設定

決定した課題の改善・克服のために必要な知識、技能、態度及び習慣はどのようなものか、また、いつまでにどの程度の達成を目指すのかを検討し、長期目標と短期目標を設定します。

長期的な観点に立った指導の目標を達成するためには、実態に即して必要な指導内容を段階的、系統的に取り上げることが大切です。段階的に短期目標が達成され、やがては長期目標の達成につながるという展望が必要です。継続的に指導をしていく過程で、指導の重複や欠落がないように、個人ファイルなどによって指導記録の管理を適切に行うとともに、指導の積み重ねによる児童生徒の変容を把握し、それを次の指導へ生かしていくことも重要です。

課題を多面的に捉えてみましょう。前述した笛吹セン太さんの実態の中から、次頁の○内のような課題が浮かび上がってきたとします。同じ課題でも、背景によって、目標や指導すべき内容の優先事項が変わります。

児童生徒の目標を設定する際には、自立活動の6区分26項目を参考に、それらを相互に関連付けることが必要です。

セン太さんの支援会議のイメージ



セン太さんの担任

実態は少しつかめてきたんだけど・・・
何から指導すればいいんだろうか？
もう一度みんなで相談しよう！

身体を上手に動かせないことも気になるんだけど・・・

少しがんばればできるのかな
こじこじして、何かしら・・・

はじめは楽しそうなんだけど、
最後はいつもけんかになってしま
まって、そして叱られるパター
ン。何とかしてあげたいよね。

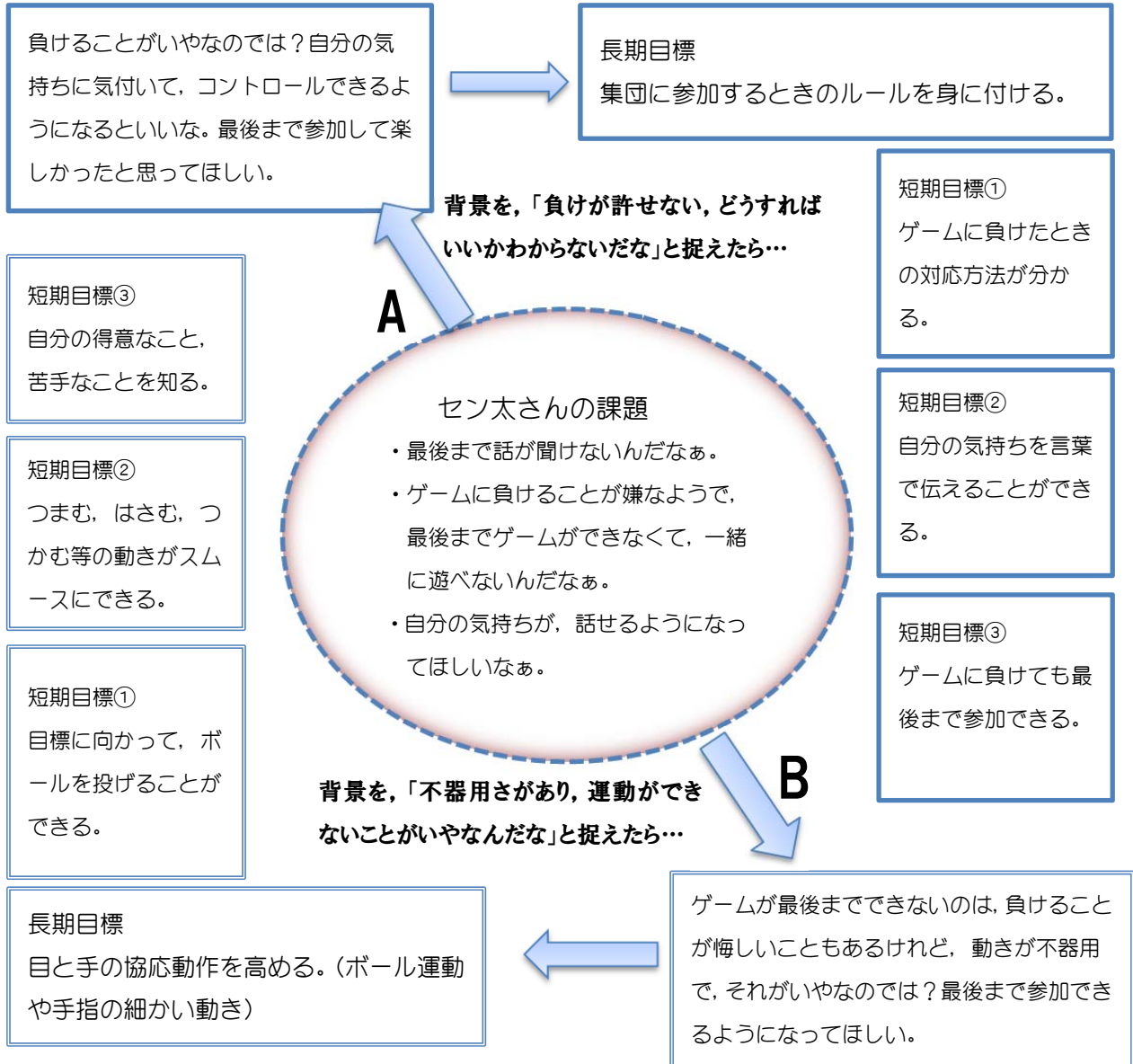
今、セン太さんが、一番困っている
ことは何だろうか？

自分から、話しかけることはでき
るようになってきているよね。

最後にけんかになってしまつのは、な
ぜだと思う？
何ができるよくなればいいのか。

自立活動の項目や内容を
関連付けて考えてみよう。





資料 1 「自立活動の個別指導計画票」指導目標欄

② 実態の中から、優先する指導目標を決めましょう。	
◎長期目標 ○短期目標	
2	<ul style="list-style-type: none"> ◎集団に参加するときのルールを身に付ける。 ○ゲームに負けたときの対応方法が分かる。 ○自分の気持ちを言葉で伝えることができる。 ○ゲームに負けても最後まで参加できる。

(3) 項目の選定

指導目標を達成するために、特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動の「内容」の中から、個々の児童生徒に必要とする項目を選定します。

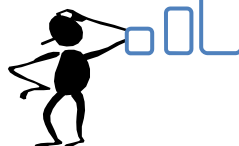
次のことを踏まえて、考えてみましょう。

- ① 児童生徒の実態を踏まえて設定した指導目標に関わる項目を選定する。
- ② 「自立活動の指導のためのチェックリスト」の項目を参考に、「自立活動の個別指導計画票」の「3自立活動の項目」にチェックしましょう。
- ③ 中心となる項目には■，関連する項目には☑を入れてみましょう。

Aの例の流れに沿って項目を選定すると次のようになります。

実態：ゲームで、負けそうになると、他の人の邪魔をする。勝手にルールを作って、それに従わせようとする。ルールは理解している。言葉で言い返さなくて、すぐに手が出る。

長期目標：集団に参加するときのルールを身に付ける。
短期目標：ゲームに負けても最後まで参加できる。
自分の気持ちを言葉で伝えることができる。



行動の背景を考えてみよう！

- ・負けることはダメなことという思い込みがあるようだ。
- ・楽しく最後までゲームをした経験が少ないな。
- ・悔しさを表現する言葉が分からないようだ・・・

	1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
3 自 立 活 動 の 項 目	☐(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	☑(1)情緒の安定に関する事	☐(1)他者とのかかわりの基礎に関する事	☐(1)保有する感覚の活用に関する事	☐(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	☐(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	☐(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	☐(2)状況の理解と変化への対応に関する事	☑(2)他者の意図や感情の理解に関する事	☐(2)感覚や認知の特性への対応に関する事	☐(2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	☐(2)言語の受容と表出に関する事
	☐(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	☐(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	■(3)自己の理解と行動の調整に関する事	☐(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	☐(3)日常生活に必要な基本動作に関する事	■(3)言語の形成と活用に関する事
	☐(4)健康状態の維持・改善に関する事		■(4)集団への参加の基礎に関する事	☐(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	☐(4)身体の移動能力に関する事	☐(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
				☐(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	☐(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	☑(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

(4) 指導内容の設定

指導目標の達成のために必要な指導内容を段階的に取り上げていきます。特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動の「内容」の中から、個々の児童生徒に必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的に指導内容を設定します。内容の設定に当たっての配慮事項は、「小学部・中学部学習指導要領第7章第3 指導計画の作成と内容の取扱い2(3)」に示されています。

<学習指導要領に示された内容>

ア 児童又は生徒が興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的にとらえることができるような指導内容を取り上げること。

<解説自立活動編に示された内容>

主体的に取り組む指導内容は…

- ・児童生徒にとって解決可能で、取り組みやすい指導内容にする。
- ・児童生徒が興味・関心をもって取り組めるような指導内容にする。
- ・児童生徒が、目標を自覚し、意欲的に取り組んだことが成功に結び付いたということを実感できる指導内容にする。

自己を肯定的にとらえるとは…

- ・「自己を肯定的にとらえる」感情は、自分のよいところを認められる段階から、よいところも悪いところも含めて自分であることを肯定できる段階に移る。
- ・自己を他者との比較や何らかの基準によって客観的にとらえられるようにすることも必要である。

イ 児童又は生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容を重点的に取り上げること。

- ・単なる座学や抽象的な知識・理解によって育てることは難しい。
- ・実際の経験等の具体的な学習活動を通して指導することが効果的である。

ウ 個々の児童又は生徒の発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって、遅れている側面を補うことができるような指導内容も取り上げること。

- ・発達の遅れた側面やできないことにのみとられると、指導効果が現れるのに時間がかかったり、意欲低下、劣等感をもたせたりすることになる。
- ・発達の進んでいる側面を促進させることで、自信と意欲を喚起し、遅れている側面の伸長や改善に有効に作用することも少なくない。

エ 個々の児童又は生徒が、活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容も計画的に取り上げること。

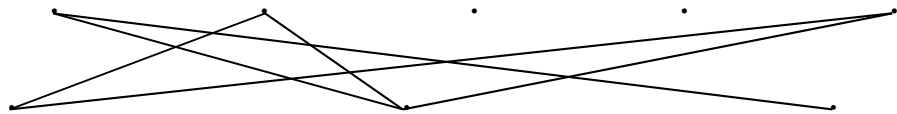
- ・児童生徒自ら環境に働き掛けられるような力をはぐくむことが大切である。
- ・自分だけで活動しやすい環境がつかれない場合は、周囲の人に依頼して環境を整えていくことを指導すること。調整のためには再依頼しなければならないこともあるなどを体験的に学習できるようにする。
- ・依頼を受ける側の心情にも配慮できるように指導する。



以上に配慮しながら、指導内容を設定しましょう。その際、項目を相互に関連付けながら、指導内容を記入します。

資料1 「自立活動の個別指導計画票」自立活動の項目欄、具体的な指導内容欄

3 自立活動の項目	1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
	<input type="checkbox"/> (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> (1)他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (4)健康状態の維持・改善に関する事		<input checked="" type="checkbox"/> (4)集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	<input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
				<input type="checkbox"/> (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事



4 具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードや言葉カードを使って気持ちを現す言葉あつめをする。 ・自分の気持ちにぴったり合う言葉を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝ったとき、負けたときの合い言葉や対処の仕方のルールを決める。 ・勝ったとき、負けたときにはどうすればいいかロールプレイして身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なゲームを繰り返し、最後までやったときの楽しさを味わう。 	
指導場面	自	○(個別)	○(個別)	○(個別, 小集団)
	教	○(国語)		
	総			
	道	○		
	特			
交				○

自・・・自立活動、教・・・国語・算数等の教科指導、総・・・総合的な学習の時間、道・・・道徳、特・・・特別活動、交・・・交流及び共同学習

指導内容については、「自立活動の指導のためのチェックリスト」の「具体的な指導内容例と留意点」を参考にしましょう。また、実際の指導や教材については、第3章「実践事例集」を参考にしましょう。



(5) 評価

自立活動における学習の評価は、実際の指導が子どもの指導目標に照らしてどのように行われ、児童生徒がその指導目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにするものです。また、児童生徒がどのような点でつまづき、それを改善するためには、どのような指導をしていけばよいか明確にしようとするものでもあります。適切な評価によって、個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かすよう努めることが必要です。

○指導前

【具体的な評価方法の検討】

評価に当たっては指導目標を設定する段階で、児童生徒の実態に即してその到達状況を具体的に捉えておくことが重要です。具体的な行動や観察できる状態として評価が可能になるよう、場面を想定したり、用いる方法を工夫したりすることが必要です。

○指導中・指導後

【児童生徒の学習状況や指導の結果に基づいた計画の修正】

個別の指導計画は、当初の仮説に基づいて立てた見通しであり、児童生徒の学習状況や指導の評価（結果）を通して、適宜修正を図ることが必要です。

【学習の過程における学習状況の評価と専門家等との連携】

学習を進めている一定期間においても、児童生徒が目標に近づいているか、また、教材・教具などに興味をもって取り組んでいるか、児童生徒の学習状況の評価し、指導の改善に日頃から取り組むことが重要です。

学習状況の評価に当たっては、教員間の協力のもとで、適切な方法を活用して進めるとともに、多面的な判断ができるように、必要に応じて外部の専門家や保護者と連携を図っていくことが必要です。

保護者には、学習状況や結果の評価について説明し、児童生徒の成長の様子を確認してもらうとともに、学習で身に付けたことを家庭生活でも発揮できるよう協力を求めることが大切です。

【実態に応じた自己評価】

評価は、児童生徒にとっても自らの学習状況や結果に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促す意義があります。したがって、自立活動の時間の学習についても、学習中あるいは学習後に自己評価を取り入れることが大切です。

【評価を通じた指導の改善】

指導と評価は一体であると言われるように、評価は児童生徒の学習評価であるとともに、教員の指導に対する評価でもあります。教員には、評価を通して指導の改善が求められます。したがって、教員自身が自分の指導の在り方を見つめ、児童生徒に対する適切な指導内容・方法に結び付くことが求められます。

資料集

資料1	「自立活動の個別の指導計画表」
資料2-1	「チェックリスト活用のための留意点」
資料2-2	「自立活動の指導のためのチェックリスト」 「自立活動の指導のためのチェックリスト（区分，項目一覧表）」
資料3	「実態把握表」